

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	療育支援ルームボンデイ		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 14日		～ 2026年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年 3月 14日		～ 2026年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムの立案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月案会議において、学校行事や児童の出席状況、人員配置等を踏まえながら、安全性と安定性を確保した活動内容の検討に加え、個々の児童の発達段階や興味関心に応じた活動の充実を図っている。 ・ 週案では、「参加児童」「ねらい」「実施内容」「使用物品」に加え、支援上の留意点や役割分担を明確にし、全職員が共通認識を持って支援にあたる体制を整えている。 ・ 日々の振り返りによる児童の様子の共有に加え、週1回の活動評価を実施し、活動の効果検証と課題整理を行うことで、次回以降のプログラム改善および支援の質の向上に継続的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童一人ひとりの発達段階やニーズを踏まえた「個別性の高い活動設計」を強化する。 ・ 活動後の評価を定量・定性の両面で記録し、PDCAサイクルを明確に回す仕組みを整える。 ・ 児童の主体性を引き出すために、選択制や役割付与を取り入れたプログラムを拡充する。
2	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ スケジュール掲示や活動の見通しを示す視覚的支援を活用し、児童が安心して過ごせる環境づくりを継続するとともに、理解度に応じた提示方法の工夫を行っている。 ・ 自立に向けた主体的な行動を促すため、活動室内の掲示物については内容や配置を見直しながら、児童自身が次の行動を選択・判断しやすい環境を整備している。 ・ 机やロッカーの配置をはじめとした空間構成を調整し、視覚的刺激を適切にコントロールすることで、児童が落ち着いて活動に取り組みやすい環境づくりを強化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の理解度や特性に応じて、個別にカスタマイズした視覚支援ツール（スケジュール・手順書等）の導入を進める。 ・ 環境設定の意図や方法について職員間で共有・言語化し、支援の標準化と質の均一化を図る。 ・ 定期的に環境の見直しを行い、刺激量や配置が適切であるか検証する機会を設ける。
3	研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人内研修については、事業所全体での参加を継続しつつ、研修後に意見交換や実践への落とし込みを行う機会を設けることで、学びを現場支援へ反映させる体制を強化している。 ・ 職員の経験年数や役割に応じて外部研修へ参加し、得られた知見を事業所内で共有する仕組みを整えることで、支援の質向上および組織全体の専門性の底上げにつなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修内容を実践に結びつけるための「振り返りシート」や「共有会」を仕組み化する。 ・ OJTとOFF-JTを連動させ、経験年数や役割に応じた育成計画を明確にする。 ・ 中堅職員を中心としたリーダー育成を進め、現場内で学びを循環させる体制を構築する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士が情報交換や交流を行える機会が十分に設定できておらず、横のつながりを構築する場の充実が課題となっている。 ・ご家族向けの学習機会や情報提供について、計画的・継続的な実施には至っておらず、ニーズに応じた学びの場の整備が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会や交流会を定期的開催し、保護者同士が情報交換できる場を設ける。 ・ミニ勉強会やオンライン配信を活用し、参加しやすい学習機会を複数の形で提供する。 ・保護者ニーズを事前に把握し、テーマ設定や実施方法に反映する。
2	地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内に放課後等デイサービスや学童等の関連施設が少なく、児童同士の交流機会を十分に確保できていない状況にあり、外部資源を活用した交流機会の創出が課題となっている。 ・周辺地域に住民が少ない環境特性により、地域との日常的な関わりが限定的となっており、地域に開かれた事業所運営に向けた関係づくりや機会設定の工夫が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣施設や他事業所と連携し、合同活動や交流イベントを企画する。 ・地域イベントや外出活動を活用し、施設外での交流機会を意図的に創出する。 ・事業所主催のイベント（見学会・小規模交流企画等）を通じて、外部との接点を広げる。
3	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等の安全に関わる取り組みについて、活動の中で実施しているものの、その内容や実施状況を保護者へ十分に発信できておらず、取り組みの見える化が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や日々の取り組みを写真やコメント付きで定期的に発信する仕組みを整える。 ・連絡ツールやお便りを活用し、活動内容の見える化を図る。 ・年間計画と連動させた発信スケジュールを作成し、継続的な情報提供を行う。

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 8年 3月 30日

事業所名 療育支援ルームボンデイ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3			プログラムによって、活動室の使い分け、児童のグループ分け等を行なっている。	児童の成長に合わせて活動場所の検討をしていく
	②	職員の配置数は適切である	2	1		必要に応じて同法人内の事業所と協働して運営している。	引き続きエリア運営を強化し事業所の運営に努める
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3				
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3				
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3				
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3				
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			3	実施なし。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3				
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2	1			
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	1			
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	3			月案会議で1ヶ月のプログラムを組んでいる。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3			毎月、目標を設定し様々なプログラムを入れるようにしている。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3				
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	3				
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	3			毎日AMIに前日の振り返りと当日の流れの確認をしている。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3				
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	2	1			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	3				
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3				
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	3				
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			3		医療的ケア児の受け入れは行っていない。今後も受け入れ予定はない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	1			
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			3		在籍児童に卒業生はまだいないため、移行時の支援内容の引継ぎ等は実施していない。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		3			
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			3		周辺にそのような機関がない。引き続き関係性の構築が今後の課題であると考えている。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		3			
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3				
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	1			
	保護者への説	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3			
㉑		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3				
㉒		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	1			
㉓		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	2	1			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
明責任等	⑳	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3				
	㉑	個人情報に十分注意している	3				
	㉒	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3				
	㉓	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			3		地域柄周辺に地域住民がおらず招待することが難しい。また、事業所の規模も大きくないため検討が必要。
非常時等の対応	㉔	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	1			
	㉕	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3				
	㉖	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3				
	㉗	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3				
	㉘	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	1			
	㉙	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3				

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果 (公表)

公表:令和 8年 3月 30日

事業所名 療育支援ルームボンデイ

保護者等数(児童数)13名 回収数 13 割合 100 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	12	1			
	②	職員の配置数や専門性は適切である	11	2		先生方のお休みが充分あるのか少し心配	職員の休暇確保にも法定通り十分配慮し運営しております。
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされている	13				
適切な 支援の 提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されている	12	1			
	⑤	活動プログラム が固定化しないよう工夫されている	12	1			
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	7	4		
保護者 への 説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	13				
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている	12	1			
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	11	2			
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	7	5	1		
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	4			
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	12	1			
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している	10		1		
	⑭	個人情報に十分注意している	13				
非常 時等 の 対 応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明 されている	12	1			
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	13				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしている	11	2			
	⑱	事業所の支援に満足している	12	1		<ul style="list-style-type: none"> ・いつも本当にお世話になっています。ありがとうございます。 ・専門性が高いのはもちろん、素晴らしいお人柄の職員さんが揃っており、子どもにとっても安心できる環境を提供していただいています。いつもありがとうございます。 	<ul style="list-style-type: none"> いつも温かいお言葉をいただき、誠にありがとうございます。 職員一同大変励みとなっております。今後も専門性の向上と安心できる環境づくりに努め、子ども達の成長を支えてまいります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等
 デイサービス自己評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。